

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104050
法人名	有限会社 山崎介護センター
事業所名	グループホーム とみひさ
所在地	松山市富久町95-5
自己評価作成日	平成28年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>明るく職員が楽しく仕事をしている。季節の野菜を取り入れたメニューで、利用者さんも職員も美味しく食事をしている。重度の方が多くなっているが少しでも笑顔が見られるような声掛けに努め、きめ細かくやさしく介護をしている。家族さんと密に連絡を取り合っている。急変時にはすぐに往診に来てもらえる。看取り後には家族さんに満足してもらっている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>毎月、事業所便りと担当職員手書きの手紙を家族に送付し、利用者の暮らしぶりを報告している。手紙には利用者本人の直筆の文言を添えることもある。看取り支援を行った際には、「さんを偲んで」という便りを作成し、生前の写真や職員の思い等を掲載している。家族会は、クリスマス会と併せて開催し、昨年は5名の参加があった。家族の事業所に対する満足度は高く、深い信頼関係が築かれている。呼称については、「さん」「じいちゃん」「ばあちゃん」等、利用者本人の希望に沿っている。職員は、利用者個々に見合った言葉を選び、時には方言も使いながら支援している。調査訪問時、八幡浜出身の利用者に、方言で対応していた。職員は、利用者同士の相性を鑑みながら、レクリエーションや外出等においても、個々のプライドを損なわないような支援を行っている。利用者それぞれに、タオルたたみや食事の下ごしらえ、日記をつけること等、出番や楽しみごとを作るよう取り組んでいる。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームとみひさ

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏名 山崎 カツコ

評価完了日 平成28年6月20日

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			「ゆっくりのんびり心穏やかに」の理念の元、利用者さんに家庭的な雰囲気でもらえるように実践している。また、理念に沿って日報に毎日目標を立て実践している。利用者さんの重度化が進み全員での外出などは無理になったが、地域の運動会、お花見、花まつりなどに参加し楽しんでもっている。	
			(外部評価)	
			理念は、居間や職員トイレにも掲示している。理念に沿って作成した日々の目標を共有し、職員一丸となって支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			町内の運動会、盆踊り等の行事には積極的に参加している。町内会長さんや町内のご近所の方々に野菜等を持ってきていただくなど、付き合いができています。	
			(外部評価)	
			日常的に地域との交流に取り組んでいる。昨年度はインフルエンザ流行のため中止となったが、事業所のバザーには、毎年多くの近隣の方の参加がある。地域住民から介護についての相談があれば、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所につなげる等、相談支援を行っている。フルート演奏や音楽療法等、地域のボランティアを受け入れており、利用者の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進委員会等で家族の方々・地域の方々との交流を深めている。美容師にカットに来ていただき希望を伝えられ利用者さんの好みのカットをしてもらっている。お節句や母の日など地域の方にフルート演奏をしていただき利用者さんが大変喜ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 状況を報告し参加者の意見を聞きサービスの向上へ向けて話し合いをしている。ご家族さんや職員のわからないことがあれば話し合い解決を図っている。</p> <p>(外部評価) 会議は、第2土曜日の19時から居間で行っている。家族、民生委員、町内会長・副会長、市担当者及び、事業所のほぼ全員の職員も参加している。スライドやビデオを使用して、事業所の現状や取組みを紹介し、毎回テーマを設定して意見交換している。又、外部評価結果についても報告している。出席した家族からは、「いろいろな方のお話が聞けるので、楽しみにしている」との声がある。利用者の参加は検討中である。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課に分からないことはすぐに聞きに行き確認している。町内会長さんや民生委員さんが協力して下さっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時には、適宜アドバイスがあり、出席した家族の質問にも対応してくれる。管理者は、公民館等で認知症や介護について講話している。地域の小学校からバザーや参観日の案内があり、2名の利用者が参加できるよう支援した。又、校外学習時には、介護車輛の見学や車いす体験ができるよう対応した。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員と家族で話し合い様々な方法を検討し身体拘束をしないように本人の思いをくみ取りBPSD対応をしている。職員は身体拘束についての研修を受けている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の勉強会は、定期的を実施している。2階の階段入口の扉は施錠しているが、自由に行き来できるよう職員が付き添っている。現在、かゆみがひどく、自傷行為のある利用者1名に、家族や医師と相談、連携しながら夜間のみ、つなぎ服を使用しているケースがある。つなぎ服使用については、職員間で検討を重ねている。</p>	<p>今後も、利用者の自由で安全な生活を支援していくために、つなぎ服に頼らないケアの工夫について、話し合いを継続して行ってほしい。</p>

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			利用者一人一人の状態を日頃から確認している。虐待についての研修に参加している。(自傷行為のある利用者さんには声掛けをしたりいろいろな工夫をしている。)	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			勉強会をしている。研修などにも参加している。(以前おられた利用者さんに成年後見制度を申請しました。)	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入所前に十分に時間をかけ説明して納得していただいている。(看取りについては、実地指導があり書類を作成しなおした。)	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族さんと月に1回の支払い日に話し合いをしている。おたよりを出している。(意見ボックスを設置している。)	
			(外部評価)	
			毎月、事業所便りと担当職員手書きの手紙を家族に送付し、利用者の暮らしぶりを報告している。手紙には利用者本人の直筆の文言を添えることもある。看取り支援を行った際には、「 さんを偲んで」という便りを作成し、生前の写真や職員の思い等を掲載している。家族会は、クリスマス会と併せて開催し、昨年は5名の参加があった。家族の事業所に対する満足度は高く、深い信頼関係が築かれている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月2回の勉強会などで話し合いをしている。個人面談がある。食事会を設けている。職員の意見を聞きすぐに対応している。	
			(外部評価)	
			今回の自己評価には全職員が取り組み、又、日常的に職員間で意見や気づきを共有し、伝え合う環境がある。法人代表者(管理者)は、福利厚生の充実に取り組み、開設時からの職員が3名いる。又、職員の資格取得を積極的に支援し、現在、2名の職員が、それぞれに介護福祉士、社会福祉士を目指して勉強している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			タイムカードで勤務状態を把握している。年一回のベースアップ、ボーナス、保険等福利厚生の充実に図っている。処遇改善・ボーナスなどがある。(勤務査定を行っている。)資格取得等各自がやりがいを持てるように努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修に参加できる仕組みがある。資格取得などの協力がある。看取りの勉強会をしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			ネットワークづくりや地域の研修会に参加して交流する機会を設けている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に何度も訪問したり、ホームに来ていただいたりして、困っていることや不安なこと、要望に耳を傾けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用前に何度も話し合いホームとの関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			信頼関係を築き必要としている支援に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			職員は、お互いに支えあい生活を共にしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			家族さんにご本人の関係性が良くなるように絆を大切にしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			馴染みの人や馴染みの場所に行くように努めている。(地域のイベントへの参加や昔から通っていた病院への通院介助等。)	
			(外部評価)	
			地域の運動会や盆踊り大会等で、顔馴染みの方と交流できるよう支援し、利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人が孤立しないように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 看取り後もご家族さんがホームに野菜等を届けてくださっている。思い出話をしたりしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご意向を伺い本人や家族の思いを把握している。	
			(外部評価) センター方式のアセスメントシートを使用し、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと等の情報を収集し、支援に活かしている。管理者は「利用者個々の価値観の尊重が利用者の幸せ」と捉え、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前にセンター方式を活用したり、何度も訪問し今までの生活歴を知るように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の有する能力を失わないように出来ることには手を出さず見守っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人の希望、家族の意向を聞きホームで楽しく暮らせるように、職員のアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画作成時は、家族に「ご意向書」を提出してもらい、家族の意見をもとに、職員で検討し作成している。毎週「ケアチェック表」にてモニタリングし、ミニカンファレンスを実施して、支援につなげている。介護計画は、3～6ヶ月ごとに、又、状況に応じて随時評価、見直している。「個別日誌」には、支援した内容及び利用者の言葉やしぐさ、行動等を具体的に記録している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個別記録の特記項目に特別なことは記録し職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>柔軟な支援に対応している。(食事時間など個々に合わせている。)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域資源の活用、公園、川の鯉を見に行っている。</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人のかかりつけ医に通院介助している。協力医療機関の医師に往診に来て頂いたり、急変時の対応をして頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者全員のかかりつけ医である、協力医療機関の医師の往診が週に1度ある。24時間対応してくれ、職員は心強く感じている。入院時には、職員が食事介助や洗濯等を支援する場合もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 管理者に看護師資格あり、利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 家族と本人の希望に沿うように支援している。早期退院できるように医療機関と協働している。(いろいろにしないと2週間ですと、医師から言われた入所者を家族の希望でその日のうちに退院しホームで2年後に看取りました。)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 早くから終末期について話し合い常に家族と話し合っている。</p> <p>(外部評価) これまで、10名の利用者の看取りを支援している。管理者は「家族に見守られながら最期を迎えられる」ことを最優先して、支援に取り組んでいる。入居時から、折々に家族と話し合いを重ねており、「ここに居たから、ここまで生きることができた」と、家族の満足度は高い。利用者それぞれのその人らしい最期に、職員は学ぶことが多い。現在、ターミナルの利用者があり、最期まで口から食べることができるよう、介護計画に取り入れ、工夫を重ねながら支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修に行ったり、勉強会を定期的に行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との協力体制をとっている。(備蓄品を地域の方にもお分けできるように多めに用意している。)定期的に訓練をしている。	今後、避難訓練に地域の方にも参加してもらおう等、地域との連携に向けたさらなる取り組みをすすめていってほしい。
			(外部評価) 年に2回避難訓練を実施している。春は、家族にも参加してもらい、事業所独自に避難訓練を実施し、秋は消防署指導のもと行っている。地区の防災訓練には、職員が参加している。運営推進会議時に、防災をテーマに話し合う機会を作り、近隣の方には日頃より協力を依頼している。地域の方にも提供できるよう、水や食料品、紙パンツ、歯ブラシ等を備蓄している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お一人お一人を尊重しプライバシーを守りその方に合った言葉かけをしている。	
			(外部評価) 呼称については、「さん」「じいちゃん」「ばあちゃん」等、利用者本人の希望に沿っている。職員は、利用者個々に見合った言葉を選び、時には方言も使いながら支援している。調査訪問時、八幡浜出身の利用者に、方言で対応していた。職員は、利用者同士の相性を鑑みながら、レクリエーションや外出等においても、個々のプライドを損なわないような支援を行っている。利用者それぞれに、タオルたたみや食事の下ごしらえ、日記をつけること等、出番や楽しみごとを作るよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  その人らしく暮らせるように希望に沿った支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)  自分で選べる人には洋服を選んでもらい、お出かけ時には お化粧品などしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  食事が楽しめるように、季節のものを提供している。餃子や お好み焼き、おやつと一緒に作ることもある。つわ、つくしの 袴取と一緒にしている。	
			(外部評価)  「おいしく食べられる」よう、利用者の希望を取り入れながら、 手作りの食事にこだわり支援している。職員も一緒に、同じも のを食べながら支援している。利用者の希望で、週2回、朝 食をパン食にしている。調査訪問時には、事業所の庭で採 れたキュウリのみそ和えや、ガラスの器に盛られた寒天ようか んが食卓に上っていた。テーブル拭きや食器拭きをしている 利用者がいた。正月三が日は、管理者手作りのおせち料理 で新年を祝っている。重度の利用者には、調理方法や食器 等に工夫を重ね、自分で食べられるよう取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  食べる量の把握、好みの把握。水分のインアウト(6月1日か ら毎年脱水予防のため寝る前にアクエリアスを100ml飲ん でいる。)	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  お一人お一人にあわせた口腔ケアに努めている。(訪問歯 科で口腔ケアをしている人もいる。)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)		
				出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価)		
				おむつを使用している利用者を除いて、他の利用者は、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)		
				毎食お汁を添えている。野菜を使っている、朝はバナナ、ヨーグルトを食べている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)		
				希望やタイミングをみて入浴を楽しめるような声掛けをしている。	
			(外部評価)		
				週に3回入浴できるよう支援している。午前中の中の入浴を希望する利用者が多いが、個々が希望する時間帯に入浴できるよう対応している。重度の方も、職員3人で介助し、湯船に浸ることができるよう支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)		
				安心して眠れるように支援している。(足に浮腫があるかたのお昼寝には職員が添い寝をしている。)	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			薬の利用目的や副作用を把握している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			洗濯物たたみや山菜の下ごしらえをしたり、天気の日には庭で花を見ながらおやつをしたり、体操、カルタ、しりとり遊び等している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加したり、買い物に出かけたり、ドライブに行っている。(重度の方が多くなり少人数のお出かけになっている。)	
			(外部評価)	
			季節ごとに、お寺の花祭り、いちご狩りや花見、ランチ、喫茶店等に出かけられるよう支援している。時には、駐車場でおやつを楽しめるような支援も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			買い物時にご自分で支払いをしてもらったりしている。(お金を見ることで不穏状態になる方もいる。)	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			ハガキを書いたり電話をかけたりしている。	

自己評価	外部評価		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			生活感や、季節感を取り入れ心地よく過ごせるように工夫している。外に出れば季節の花や野菜が出来ている。	
			(外部評価)	
			玄関の扉や塀に沿って、手入れの行き届いた種々の鉢植えの花を飾っている。庭には、きゅうりやなす、プチトマト等、夏野菜が実っていた。調査訪問時、利用者は七夕飾りの短冊に願い事をしたためていた。壁には、毎月、利用者と共に作っている季節の貼り絵やカレンダー、習字作品、行事の際の写真等が掲示されている。食事の際は、テレビを消し、童謡を流している。居間には、神棚が設けられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			思い思いに過ごせるように、3時のおやつ後にはゲームをしたり、ちぎり絵、カレンダー作りをしたりしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			お仏壇や、テレビ、冷蔵庫などを持ってきている。使い慣れたものを持ってきている。お部屋の片づけ、シーツ交換を一緒にしている。	
			(外部評価)	
			入居時に、職員が撮った家族と一緒に写真を引き伸ばして壁に貼っている。毎月の手作りカレンダーやお孫さんの写真等が飾られ、お仏壇には家族が持ってきたお菓子が供えられていた。自身でコーディネートした洋服を何着もハンガーにかけて、一日に何度も着替える方もある。昼食後から3時までは、居室で各自テレビを見たり、日記を書いたり、昼寝をしたりして過ごしている。日向ぼっこも困難な状態の寝たきりの重度の方には、窓を開けて外の様子を感じられるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			出来る限り自立に向けて、見守りや声掛けでしてもらっている。	